

# 童

2021年7月21日

雨が降り続いた梅雨が、はっきりと去り、今度は夏の猛暑がきっちりやってきました。大地の雑草も、二週間足らずで恐ろしく成長して、草刈りの間隔が異常に短くなりました。喜ばしい事では無いですが、同じく 田んぼの稲も野菜類も同じく成長しているので、こちらは喜ばしい事です。やはり 雨と太陽は、躍動感溢れる成長を促してくれるものです。

この梅雨の不安定な天候をそのまま日常として素直に受け入れ、ぶれること無く楽しんだ7月。天候を危惧すること無く、それに沿った暮らしを楽しむ大地の行事、7月には、たくさん楽しませていただきました。こちらの企画側の気持ちですが。電車海水浴 夕涼み会 早朝カフェ 飯綱登山 流しそうめん 泥遊び 五右衛門風呂 笹寿司給食など。全ての行事は、自分が子どもだったら、我が子と楽しんできたこと という超エゴイスティックな動機で企画し楽しんでるので、大変だとか疲れるとか面倒くさいとかそんな気持ちは湧いてこず、張り切ってしまうのが現状です。

だから、天候と仲良しになって、暮らしていけば、それなりの楽しい結果が着いてくるものですね。一例として、毎年 ドラマチックに雨の洗礼を受ける夕涼み会、自由参加ですが、2日間連続早起きの早朝カフェと登山など。大地父の友にもありましたが、雨だからこそ印象的思い出ドラマチックな展開となりました。運動会も大雨の時にいったことがありますが、翌年は晴天となり、逆に物足りなかったという声が出たほどです。非日常的な事を楽しむ気持ちは、お祭りと同じものです。定期的な非日常的な出来事は、暮らしにアクセントと活力を生み出します。もちろん これらは 日常の暮らしが安定して行われていることが前提で有り、バランスを客観的に見ている事も大切です。

夏は 情熱的で躍動感溢れる季節です。ここにエネルギーをたっぷり出して暮らし、そして、秋は芸術的にゆったりと暮らす(4つの気質のように) これらを見通して展開していこうと思っています。夏の汗をかいた量が、冬の健康を占うと言われています。たっぷり刺激的な夏をお楽しみください。



## 【まるい個性と角の個性】

「俺は子ども達や大人の動きを見て言ってるんだよ」「勝手にやらないでよ」「広いから走り回るんだよ」「コロナだからそうしたんでしょ」「でも現状はそうなっていねえよ 美しさと秩序が必要なんだよ」「暗くて電気が必要でしょ」「それだったら、壁ぶち抜いて大きい窓をつけるよ」(次第にけんか腰になっていく)「俺には、先をイメージする才能があるんだ、だから試作挑戦してみるんだ」「それは認めるけど、言い方があるでしょ」・・・青ちゃん夫婦の日常の一コマ。

傍から見たら夫婦けんかだが、これは夫婦の激論だと思っています。大概 青ちゃんが強情で最終的には結果を出す努力を孤独に行って解決するパターンが多いです。後に引けない大風呂敷を広げて 自分を追い込み 意地になって結果を出して 相手を見返す 説き伏せるという、嫌らしいパターンかも！？

夫婦の激論と言おうか。家庭の維持 特に家庭教育への父親 男性の発言力がめっきり少なくなっていると感じます。イクメンと称して男性が優しくなり、または無責任なのか、それとも 母親が強くなり、子供の教育は 自分が専門に担当して、男性の出る幕を拒んでいるのか。

子どもを日常的に見ている母親は、幼稚園や子どもの交友関係 健康や安全管理 行動や細かい生活の指導 他人との比較など、とかく生活全般の細部に眼が集まりがちです。つまり、とかく局所的になりがちです。もちろん、暮らしの上で、局所的認識は必要不可欠であり、重要であります。同時に 社会で働く父親の大局的認識も大切です。

大地父の友の斜面にもありましたが、母親は 一つ一つ丁寧に局所的に積み上げて行く 父親は 勢いや精神論を見せる事がある。この母性と父性は相容れない(お互いに理解できない場合が多い) からこそ、激論 討論が必要になってきます。局所と大局はしばしば相反するし、現実論と精神論 短期的視野と長期的視野も矛盾しがち。

例えば 大局的認識 長期的視野とは、精神的な強さの育成や精神論(秩序 生きる姿勢 決まり事)や見通しを持って今なすべしことなどを教える事です。登山にしても、坂道は苦しいし、登るのはつらく、やめたい 登りたくないと言えれば局所的には、かわいそうだから下山しようと言うことになります。これが局所的視野です。つらくても乗り越える力を 頂上での素晴らしいパノラマを見せてあげたい という長期的視野 これが大局的視野です。

女性も社会的進出で男性と同様に厳しい社会的現状を知っている方も多いですが、社会の中で複雑多様な現状を身を持って熟知している(出世 ストレス 健康 会社と家庭のバランス 人間関係 上司部下との関係)男性も、家庭教育の中で、このような現実で暮らすための長期的な術や精神論を教える(登山やあえて苦しい乗り越える遊びやキャンプや宗教的道德心)事が大切です。約束を守る 時間を守る 他人や第三者のために自分の時間を使う 社会秩序の美しさなどを教える事も大局的認識です。

「あなたは 子どもを日頃見ているから分からないでしょ」という一言で 父親は、家庭教育から閉め出されて、その結果 話し合いの場がなくなり、子どもは 細かい事 現実的なこと 目先の事だけを指導されがちになってしまっておそれがある。健全な価値観を構成するためには、夫婦げんか 激論は必要だと思います。(性格の不一致として、離婚問題まで行かないように願います。これはけんかしたまま終わってしまった結果であり、激論の末にクリエイティブな実績結果があれば大丈夫です)

さてもう一つ。ある本で 最近面白い学生が減ったという先生の声を読んだ。面白い学生とは 協調心に欠けるが我が道を行く者、授業やゼミで教官をやり込める事に生きがいを見いだす者、授業には出ないが試験ではいつも満点を取る者、学問に限らず何かに夢中でそれに関しては専門家だしの者等。一言で言うと個性の角のある学生。

逆にまるい個性とは、指示した課題や問題はきちんと遂行して言うことを素直に聞く学生。そんな学生は、近くにいっても気疲れしなく、こちらに脅威を与えるだけの迫力がないから、快適な気分で話し合える。まるい個性は 善良な市民とか円満な家庭人という点では望ましいのだが、そのような人達では創造性ある社会は築かれて行かないらしい。

個性の角とは創造性のことでもあり 科学 技術 芸術等を生み出す人々には、これを備えた人が多いらしい。個性は 外に出た行動のみならず、考え方生き方にこそ個性の輝きがあると思います。個性には 近くにいると辟易する気疲れすることもあります。客観的にちょっと離れて無責任に見ている限り とても魅力的に青ちゃんは思います。

そうこうして見ると、幼児の世界にも世に言うやんちゃ坊主が少なくなっているように思えます。嫌いなことは絶対にやらない子。逃げ出して家までの道のりを歩き始める子、食欲に昼夜を問わずカブトムシを探す子、自分の要求を通すまで泣き叫ぶ子・・・手を焼かしてくれる子ども。そんな子どもの保護者とも、激論をしたりして 今思えば 角張った大人達もぞろぞろいたように思える。(共通一次試験導入頃から平均化が進んだと言われている)

角張った個性をなめらかにしようとする教育体制は、突出した人間をうまないのではないのでしょうか。それは民主的のように見えますが、何か面白くない。創造的な刺激的な社会になっていかないように思えます。角張った個性のぶつかり合いは 時にはけんかと激論を生みます。そして、大きな刺激的な財産を、一度きりに人生に与えてくれます。